

うえなえ

Vol.429 2024.2

ウトナイ病院

新築移転・外来統合終了

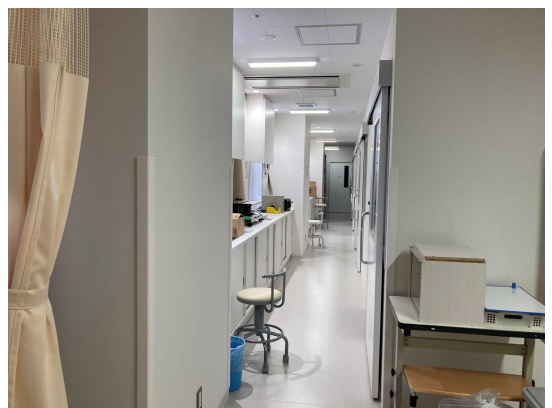
先月の26日で外来診療を終了した柳町診療所が今月5日より当院に統合され新体制で外来診療を開始した。先月9日からは、柳町デイケアが一足先に統合されており、これで新病院移転に伴う新しい外来診療体制が整うこととなった。

昨年12月1日に植苗病院は入院患者さんの移送を無事に終え、同月4日より外来診療を開始しました。外来受付の手順が変更となり、受診される患者さん自身に受付番号とオレンジのファイルを持ち歩いていただくことになりましたが、これにより事務のシステム上の番号と受付番号がリンクしない問題が発生するなど一部混乱がありました。また公共交通機関と当院の巡回バスの乗り継ぎの件でも問い合わせが多数あり、電話・受付窓口のみならず診察時にも質問が相次いだため、急遽スタッフ用の乗り継ぎ表の作成が必要でした。各病棟は、12月移転当初は病床を管理しやすくコール対応も表示する大型モニターの導入等の新しい機材の操作の仕方や手順の確認、医材の整理に追われていましたが、少しずつ病棟運営も落ち着きを見せ始めています。

植苗病院移転に伴う混乱がひと段落した年明け、1月9日に柳町診療所のデイケア部門が移転を終えてスタート。外来受診

とデイケア入口を別に設け独立した空間にする工夫をしました。また、レイアウトが変わったことで、従来のプログラムを実際にやってみて初めてわかることがたくさんありました。特に卓球や体操といった「アクティブ系のプログラム」はスペースを確保する工夫する必要があり、今後はプログラムの見直しも検討しています。さらに、これまでフロアを分けていたリワークデイケアも同じフロアで実施することとなったため、スペースの限界も相まって現在は待機者が出るほど定員いっぱいの状況となっています。一方で、「デイケア通所のみ」「デイケアの通所と診察を兼ねる方」を事務運用上どうするのかなどで現場が混乱し、関係部署での話し合いが連日行われたこともありました。

デイケアメンバーも新しい環境に慣れ、外来部門もようやく落ち着きを取り戻したところに、柳町診療所外来の移転です。今回、外来部門がすべて統合されたため、午前診療のみの内科も含めると午前は3～4診制、午後は1～2診制となりました。統合初日の午前は4診体制だったため、午前中だけで100人近くの方が受診され、外来フロアにはたくさんの患者さんが溢れていました。柳町診療所スタッフも合流し人的には充実したものの、移転して初めて電子カルテを操作するスタッフがいることに加え、多くの患者さんが一堂に会することから、しばらくの間は受付にも会計にも時間がかかり、大変お待たせしてしまうなどご迷惑をお掛けすることが予想されます。また、敷地内にある調剤薬局（ファーマライズ薬局ウトナイ店）も、初めて利用される方の場合は登録手続きに時間を要しているようです。受診の際には十分な余裕を持って来院していただければ幸いです。受診の際には十分な余裕を持って来院していただければ幸いです。受診の際には十分な余裕を持って来院していただければ幸いです。



ウトナイ病院通信

第14回 リハビリテーション部

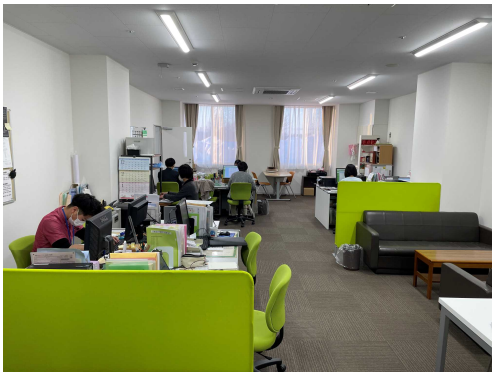
この部は、作業療法課・医療相談課・心理課の3つの課を統合した部署で栄養課を加えた4課が同じ部屋に集結しています。スタッフ間では、リハ部と呼ばれています。現在、作業療法士6名、精神保健福祉士5名、公認心理師2名、管理栄養士1名の計14名という大所帯になっています。（通称：コメディカルスタッフとも呼ばれています）



こうした組織体系は全道的にも珍しく当法人も植苗病院開院後まもなく、精神保健福祉士（当時は精神科ソーシャルワーカー）と公認心理士（当時は心理士）が同じ部屋で患者さんへのリハビリ活動を一緒にするようになったことがきっかけとなっています。

1994年（H6）4月、国家資格化されたばかりの作業療法士を採用して本格的に精神科リハビリ活動をする事になり、「これまでの生活状況を知り退院後の生活を支援する精神保健福祉士と一緒にいた方がリハビリ活動がよりよいものになる」と同じ部屋にいるようになり、作業療法士だけでなく精神保健福祉士や公認心理士・管理栄養士もリハビリ活動をするようになり、現在に至っています。

植苗病院時代は正面玄関の向かいにありましたが、ウトナイ病院移転後は外来トイレの斜め向かい・医事課の隣と少しわかりづらい場所になってしまいました。その分、以前よりも広くなり簡単な面談や打ち合わせができる面談スペースを新たに設けましたので、入院中の方やそのご家族・外来でカウンセリングを受けられている方々にはお気軽に入室して頂ければと思います。（外来通院のみの方は、地域連携室に入室ください）



また病院移転に伴いリハビリテーション部直通電話（0144-84-1017）が開設されましたので、上記コメディカルスタッフへのご相談・ご連絡には是非こちらの直通電話をご活用ください。

お知らせ

◆ 2月5日～3月29日の外来担当 ◆

	月	火	水	木	金
午前	片岡 高木※ 川並	阿部	片岡 高木	片岡 塚	片岡
午後	片岡	阿部	片岡 高木	片岡 塚	片岡



精神科医 田中 尚朗

第11回 昨日に架ける橋

みなさんこんにちは。今回は、かつてボストンからマサチューセッツ州西部に伸びていたセントラル・マサチューセッツ鉄道を取り上げたいと思います。

現代のマサチューセッツ州はボストンを中心に、大西洋岸のワシントン、フィラデルフィア、ニューヨークなどとつながる「北東回廊」の一部とみなされていますが、実際には南北約180km、東西約300kmと横長に広がる形です。このため東西を結ぶ陸路は重要であり、州西部は北進すれば隣のヴァーモント州を経て英領カナダへ、西進すれば「アッパーステート」と呼ばれるニューヨーク州北部へつながる交通の要衝だったのです。このため東西を結ぶ鉄道もいち早く建設され、19世紀後半にはニューヨークの州都オールバニーに至る「ボストン・アンド・オールバニー鉄道」、州西部への幹線「フィッチュバーグ鉄道」が覇を競っていました。

そこに現れたのが「セントラル・マサチューセッツ鉄道」です。すでに2本の幹線があるのに、東西150kmにおよぶ新線を設置しようというのです。1881年に部分開業、しかしたちまち資金繰りは行き詰ります。その後、紆余曲折を経て路線の使用権は北東部の巨人「ボストン・アンド・メイン」が取得。同社は「ボストン・アンド・オールバニー」「フィッチュバーグ」両社の牙城を崩すべく、「セントラル・マサチューセッツ鉄道」に注力し始めます。しかし、度重なる水害・天災により運行が困難となり、19世紀末に「ボストン・アンド・メイン」は「フィッチュバーグ」の路線を借り受けることとなります。ここにおいて「セントラル・マサチューセッツ鉄道」の命運は縮小・廃止と決まってしまうのです。

現在も残るこの路線の数少ない遺構に、ボストンに近いウォルサムにあるトラス橋があげられます。もちろん、ここを目指して集まってくる鉄道ファンなどはいるはずもなく、橋は今日もその姿を野ざらしにしています。



最近、コロナ禍でスマホと仲良くなり過ぎたせいなのか、年をとったせいなのか、目のピントを合わせるのに時間がかかるようになってしまった。スマホの画面から目を離して遠くを見た時は特にである。そこで、楽しい老後のために視力を大切にしようと思い、同じ目を使うなら本を読むことにしてみた。

早速、図書館で本を数冊借りてきた。その中の一冊『青椒肉絲の絲、麻婆豆腐の麻』（新井一二三、筑摩書房）が面白かったので少し紹介を。この本は中国料理について言葉や文化を中心に料理の名前について説明をしてくれており、漢字文明の持つ数千年の歴史の奥深さを感じさせてくれる。読み終わった後には、脳内に中国料理の新しい知識と旨味（想像のですが）が広がり、このワクワクする気持ちを誰かと共有したくなってしまう。だからと言って拉麺の拉はねとか、実はしゃぶしゃぶのしゃぶはとか急に言い出しても煙たがれるだけだと思うと、なかなか勇気を出せず結局一人楽しんでしまうのです。でもいつか、某院長に思い切って中国料理について語り合いたいです！と言ってみたいという野望はあるのですが、圧倒的知識量の差の前では、どう考えても私がただただ聞くだけの知識のフリーライドになりそうなのだけれど、許してもらえるのでしょうか。

(S.K)

頂が化粧されてる真っ白く

★光伸

サッカーの三苦一ミリ最高だ！

★W

お知らせ

◆ 外来変更のお知らせ ◆

2024年4月1日(月)よりウトナイ病院精神科外来が下記のように変更になります。外来をご利用されている皆さまには大変ご不便をお掛けいたしますがよろしくお願い致します。ご不明な点がございましたら受付にご確認ください。(2/5~3/29の外来については2面をご覧ください)

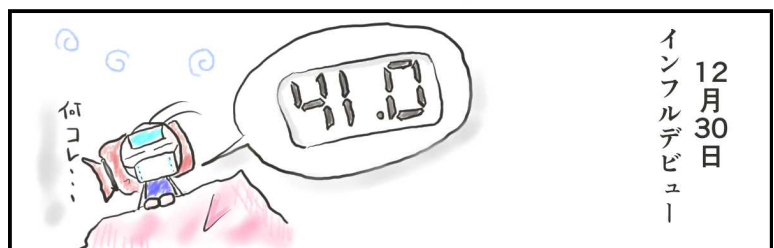
	月	火	水	木	金
午前	片岡 高木※ 川並	高塚	片岡 阿部	片岡 高木 高塚(アルコール)	片岡
午後	片岡	阿部	片岡 高木	片岡	片岡

※高木院長の月曜日午前の再診は予約制になります ※内科外来に変更はありません

◆ 電話についてのお願い ◆

代表番号に電話が集中することを防ぐため、下記のように使い分けていただけますようご協力をお願い致します。

- ①外来や入院の新患受診相談
⇒地域連携室直通
0144(84)5658
- ②受診に関することや会計・手続等
のお問い合わせ
⇒代表電話
0144(84)5561
- ③入院中の方の担当コメディカルス
タッフへのご相談・ご連絡
⇒リハビリテーション部直通
0144(84)1017
- ④デイケア通所中の方
⇒デイケア直通
0144(84)5774



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こびし広報委員会
苫小牧市ウトナイ南2丁目1-8
TEL:0144-84-5561
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



きれいなホールで食事ができたり、お話ができるのはうれしいですね

〈後記〉
新病院に移り2カ月が過ぎました。まだまだ慣れないことが多く、ご不便をかけることがあると思います。早く新しい環境でスムーズに業務を行えるよう、頑張っていきます。これからもよろしくお願い致します。(Y.C)